

【施策評価調査】

施策名	1-4-2	市街地配水管網整備事業		78	政策を推進するには、より安心な水道水の供給が必要であるため より安全な水道水の供給……老朽管による漏水の解消 より安定した水道水の供給……配水管網の整備による水量・水圧不足の解消 顧客満足度の高い水道事業の運営……モニター制度導入による公聴の充実 以上の事を解消する事により、安心した水道水を供給します。当施策は、 の観点から実施します。
	担当部課	建設産業部上下水道課	担当 リーダー		
環境変化	特になし				施策内容 より安定した水道水供給のため、他の公共事業と連携を図りながら、複数の給水管を一つの配水管に整備し、水量・水圧不足の解消に努めます。

指標

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標 : 水量・水圧不足解消進捗率 (%)	対象配水管総延長 10,000m	計画		5.9%	17.6%	29.4%	41.2%
		実績		16.3%	39.4%		
指標 :		計画					
指標 :		実績					
指標 :		計画					
指標 :		実績					
指標に関する特記事項	配水管の整備累積進捗率となっています。平成20年度末 $3,942.64\text{m}(\text{配水管整備累積延長}) \div 10,000\text{m}(\text{配水管整備全体延長}) = 39.4\%$						

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	0	24,200,000	30,710,000	27,589,000	
	決算	0	23,068,500	56,059,500		

専務事業事前評価 22年度の組立て

施策傘下事務事業	事業費	活動指標(アウトプット)	事業の実施によって、施策達成にどう貢献しますか？(アウトカム)	今後の方向性(総合評価)	継続
宝積寺地区配水管布設事業	H21 現計 14,370,000	配水管布設延長 559m	給水管を配水管として整備することにより、水量・水圧不足が解消され、又、耐震性の高い配水管とすることから、地震等の被害を最小限にすることができ、より安定した水道の供給ができる。	今後の方向性(総合評価)	継続
	H22 計画 19,190,000				
区画整理地区配水管布設事業	H21 現計 15,014,000	配水管布設延長 365m	区画整理事業にあわせて、配水管を整備することで、水道の普及拡大とともに住環境の整備が図られる。	今後の方向性(総合評価)	継続
	H22 計画 13,610,000				
仁井田地区配水管布設事業	H21 現計 0	配水管布設延長 43m	複数の給水管を一つの配水管として整備することにより、水量・水圧不足が解消され、又、耐震性の高い配水管とすることから、地震等の被害を最小限にすることができ、より安定した水道の供給ができる。	今後の方向性(総合評価)	継続
	H22 計画 1,050,000				
台新田地区配水管布設事業	H21 現計 0	配水管布設延長 800m	宅地等に布設された配水管を、町道等に布設替えすることで、維持管理が容易になる。又、既設の配水管と接続することで、配水管のループ化が図られ、水道の安定供給が図られる。	今後の方向性(総合評価)	継続
	H22 計画 20,270,000				
	H21 現計			今後の方向性(総合評価)	
	H22 計画			今後の方向性(総合評価)	

施策事前評価 22年度の組立て

自己評価	後期計画に向けた施策展開のビジョン		H22年度の狙い
	今後の方向性 現状水準維持	石綿セメント管更新事業と関連する区域を優先的に実施し、下水道工事とは同時施工とし、工事コストの縮減を図る。 駅西第2地区は地域の計画決定後に、次期下水道認可区域は下水道工事と同時施工として実施する。	
総合評価	継続的に施策展開がされていると評価する。 後期計画に向け、関連する他の施策と整合を図った上で、連携のとれた施策展開をするとともに、財政状況を勘案した整備計画を策定すること。		